

特色2

1

今日の教育課題にかかわる箇所を中心に、学習したことをいかして社会的な事柄に参画したり、提案・発信したりする学習場面を例示しました。

ポスターにして伝える

日本文学新聞の発展 街のみんなが知るべき新聞として、街のみなさまの意見や要望をよりよく取りこんでいきます。

市のはつてんのために そうすけさんたちは、明石市のこれからのためにどのような取り組みが待っているのか、市の広報紙を見て探していました。

「みんなが住みたい・住みつづけた・いまちながびでているんだよ」
市の「たからもの」をそくたかるとり組まさせていただきますんだ。」

そうすけさんたちは、市の「たからもの」の一つである天文科学館の館長さんにお話を聞きました。

そうすけさんたちは、学習したことをより返りながら、市がこれからどのようにしてほしいか悩んでいます。そして、話し合ったことをたくさんの人に伝えるために、「みらいの明石市」のポスターをつくることにしました。

いかにす
わたしたちの街をたかましくするにあたって何をしようか。

「子どもと大人がともに暮らすまちを築きたい」

「子どもと大人がともに暮らすまちを築きたい」

「子どもと大人がともに暮らすまちを築きたい」

「子どもと大人がともに暮らすまちを築きたい」

いかにす
わたしたちの街をたかましくするにあたって何をしようか。

「子どもと大人がともに暮らすまちを築きたい」

「子どもと大人がともに暮らすまちを築きたい」

「子どもと大人がともに暮らすまちを築きたい」

「子どもと大人がともに暮らすまちを築きたい」

●市のはってんのために

調べたことをもとに、市がこれからどのようなになってほしいか話し合い、ポスターにして伝える活動を提示しています。

さまざまな意見をふまえて社会的課題を考える

いすか

自然を守りながら、
人が遊んでいくために
は、どんな方法があるかを
大いに話し合おう。
なかなかならぬでしょう。

この川は、ほぼ
10年ほど前はみんな
を苦しめました。昔々時
代にこの川では、
家がみんなました。

とてもこわかった
です。生活が平穏に
なつてきました。

こんな立場から考えよう あなたが住んでい
るまち、自然豊かな自然環境をかなえてい
るまち。そのうえで、今、川をめぐって大きな
問題が生じています。

きれいな川を
守るには、どう
したらいいの
でしょう。

二つの意見
があるようです。
聞いてみましょう。

●二つの意見のちがいを、次の表にまとめてみましょう。

	目録点	両方の意見
いさんたちの意見		
いさんたちの意見		

自然にまかせる二つの考え方

いさんたちはいさんたちの意見は、自然にまかせるか
わたりでまかせるようにしています。

いさんたちの意見

人間が自然にまかせるなから管理するこ
とは大切だしています。つまり、人間の
ために自然を守る、ということ。

いさんたちの意見

人間はもともと自然にまかせるな
まかせるのがよいと考える。つまり、自然の
ために自然を守る、ということ。

自然を守りながら人が遊ぶために
は、自然にまかせるか
わたりでまかせるか
を話し合おう。

136

139

●ことなる立場から考えよう

生活と環境について調べてきたことをもとに、自然保護をめぐる異なる立場について理解を深め、考えていく活動を提示しています。

自分にできることを考える

[illegible]

●ひなん所シミュレーション

地震からくらしを守る取り組みを調べた後で、学校や地域で助け合う「共助」についてより深く考えるために、ゲームを使う方法を提示しています。

社会参画

[illegible]

●公園づくりについて話し合おう

公園づくりを例に、さまざまな意見を取りまとめながら、よりよい社会の形成について具体的な考察を進めていく活動を提示しています。

新学習指導要領の各学年の「内容の取扱い」に「選択・判断」が示されている箇所を中心に「いかす」を提示しました。

学年	新学習指導要領で 「選択・判断」が示さ れている箇所	「いかす」の該当箇所	学年	新学習指導要領で 「選択・判断」が示さ れている箇所	「いかす」の該当箇所
3 年	内容の取扱い (3) イ	P.120-121 (単元「くらしを守る」)	5 年	内容の取扱い (5) ウ	(下) P.138-139 (単元「わたしたちの生活と環境」)
4 年	内容の取扱い (1) エ	P.50-51 (小単元「水はどこから」)	6 年	内容の取扱い (3) エ	(政治・国際編) P.96-97 (小単元「日本とつながりの深い国々」)
	内容の取扱い (1) オ	P.72-73 (小単元「ごみのしやりと利用」)			
	内容の取扱い (2) ウ	P.94-95 (小単元「地震からくらしを守る」)		内容の取扱い (3) エ	(政治・国際編) P.110-111 (小単元「世界の未来と日本の役割」)
	内容の取扱い (3) ウ	P.112-113 (小単元「残したいもの 伝えたいもの」)			

2

実際に取材した「〇〇さんの話」を随所に設けて、さまざまな仕事や社会的活動にかかわる人の姿を取り上げ、共感的に人の生き方に学ぶことができるようにしました。キャリア教育の観点からもご活用いただけます。

市役所の赤崎さんの話

1919（大正8）年に明石が市になったときの人口はおおよそ3万2千人でした。その後、林崎村、大久保町、魚住村、二見町といっしょになり、今の明石市の形になりました。さいしょの明石市とくらべると、今の広さはおおよそ

6倍、人口は10倍になりました。平成になると、お年よりの数がふえてきました。また、市に住む外国の人もふえています。今は、おおよそ3千人がくらしています。



3年 P.133

松島高校2年生の宇佐美さんの話

小さいころから旅行が好きで、観光科に入りました。毎日、仙台から通っています。ここでは、まちの観光しせつで学ぶ実習が多く、働くことの大変さを実感していますが、地いきの人たちととても仲良くなり、やりがいを感じています。今では「第二のふるさと」になった松島町のために、卒業した後も何かできることはないか考えています。



4年 P.164

あらしる パイナップル農家の新城さんのお話



パイナップルは植え付けてから収穫まで約2年もかかります。沖縄の暑い日差しで果実が日焼けしないように、一つ一つふくろに包んだり、ネットをかけたりしてくふうしています。収穫は夏の暑い時期に行いますが、葉の先にあるとげから体を守るため、^{あつ}厚い作業服を着て収穫するのでとても大変です。昔はかんづめ用のものを^{げんざい}つくっていましたが、現在は生食用の^{かかく}価格の高いパイナップルもたくさんつくるようになっていました。たくさんの人からおいしいと言われて、やりがいがあります。

5年上 P.51

大使館のマーヘルさんの話



サウジアラビアの気候は、日本と比べてとても暑いですが、冬には、気温が大きく下がります。砂漠^{さばく}のイメージが強いかもしれませんが、広い国土^{こくど}には、雨が降る地域^{ちいき}や冬に雪が降る地域もあります。昔は、羊や牛を飼って、砂漠を移動しながら生活していましたが、都市化が進み、今は定住している人がほとんどです。

サウジアラビアでは、金曜日と土曜日がお休みです。休みの日には、砂漠で乗り物に乗って遊んだり、みんなで集まってティータイムを楽しんだりします。

6年政治・国際編 P.88